

ベーシック薬学教科書シリーズ4『無機化学』正誤表

(2011年4月30日第1版第1刷)

本書に以下の誤りがありました。読者ならびに関係者各位にご迷惑をおかけしたことを深くお詫びし、謹んで訂正いたします。

ページ, 行	誤	正 (赤字で表示)
p. 5 上から 8 行目	(h はプランク定数 = 6×10^{-24} Js)	(h はプランク定数 = 6.6×10^{-34} Js)
p. 11 上から 12 行目	すなわち($n^2/8mL^2$)の n^2 倍で表される	すなわち($h^2/8mL^2$)の n^2 倍で表される
p12 上から 6 行目	ギリシャ文字の Ψ (プサイ)は…	Ψ(ギリシャ文字のプサイ) は…
p. 16 図 1. 16	3d _{xy} 軌道 ($n = 3, l = 1, m_l = 1$) 3d _{yz} 軌道 ($n = 2, l = 1, m_l = -1$) 3d _{zx} 軌道 ($n = 2, l = 1, m_l = -1$) 3d _{x²-y²} 軌道 ($n = 2, l = 1, m_l = -1$) 3d _{z²} 軌道 ($n = 2, l = 1, m_l = 1$)	3d _{xy} 軌道 ($n = 3, l = 2, m_l = 0$) 3d _{yz} 軌道 ($n = 3, l = 2, m_l = 1 または -1$) 3d _{zx} 軌道 ($n = 3, l = 2, m_l = -1 または 1$) 3d _{x²-y²} 軌道 ($n = 3, l = 2, m_l = 2 または -2$) 3d _{z²} 軌道 ($n = 3, l = 2, m_l = -2 または 2$)
p. 18 表 1. 5	原子番号 30 Zu	原子番号 30 Zn
	4s 4p 4d	4s 4p 4d
	原子番号 44 Ru 2 6 8	原子番号 44 Ru 2 6 7
	原子番号 45 Rh 2 6 10	原子番号 45 Rh 2 6 8
	5s 5p	5s 5p
	原子番号 48 Cd 2 1	原子番号 48 Cd 2 0
	原子番号 49 In 2 2	原子番号 49 In 2 1
	原子番号 50 Sn 2 3	原子番号 50 Sn 2 2
p. 19 上から 9 行目	He (原子番号 = 2) を例にとって,	He (原子番号 Z = 2) を例にとって,
p. 28 表 2. 1 のタイトル	おもな共有結合半径 (ppm)	おもな共有結合半径 (pm)
p. 39 「本章の目標」を追加		・一酸化窒素の電子配置と性質について学ぶ.
p. 49 図 3. 11	一番右にある水素分子の電子数 8 8	2 2
p. 50 上から 11 行目	——分子構造であることは後に説明する).	[——分子構造であることは後に説明する (3. 7. 2 項)].
p. 52 図 3. 18	二酸化硫黄 (SO ₂) [$\ddot{\text{O}}-\overset{\cdot\cdot}{\underset{\cdot\cdot}{\text{S}}}-\ddot{\text{O}} \leftrightarrow \ddot{\text{O}}=\overset{\cdot\cdot}{\underset{\cdot\cdot}{\text{S}}}-\ddot{\text{O}} \leftrightarrow \ddot{\text{O}}-\overset{\cdot\cdot}{\underset{\cdot\cdot}{\text{S}}}=\ddot{\text{O}}]$	二酸化硫黄 (SO ₂) [$\ddot{\text{O}}-\overset{\cdot\cdot}{\underset{\cdot\cdot}{\text{S}}}-\ddot{\text{O}} \leftrightarrow \ddot{\text{O}}=\overset{\cdot\cdot}{\underset{\cdot\cdot}{\text{S}}}-\ddot{\text{O}} \leftrightarrow \ddot{\text{O}}-\overset{\cdot\cdot}{\underset{\cdot\cdot}{\text{S}}}=\ddot{\text{O}}]$
p. 52 図 3. 19	一酸化窒素 (NO) [$\overset{\cdot\cdot}{\text{N}}=\overset{\cdot\cdot}{\text{O}} \leftrightarrow \overset{\cdot\cdot}{\text{N}}\equiv\overset{\cdot\cdot}{\text{O}}]$	一酸化窒素 (NO) [$\overset{\cdot\cdot}{\text{N}}=\overset{\cdot\cdot}{\text{O}} \leftrightarrow \overset{\cdot\cdot}{\text{N}}\equiv\overset{\cdot\cdot}{\text{O}}]$
p. 52 図 3. 20	ホスホン酸(H ₂ PO ₃) ホスフィン酸(H ₃ PO ₂)	ホスホン酸(H₂PHO₃) ホスフィン酸(HPH₂O₂)
p. 85 欄外追加		塩基性分子の塩基性は、塩基解離定数 K_b によって定義される。 K_b は実際にはあまり使われないが、共役酸の K_a から算出することができる。 $K_a \times K_b = K_w = 1.0 \times 10^{-14}$ したがって、 $\text{p}K_a + \text{p}K_b = 14$ K_b が大きいほど、すなわち $\text{p}K_b$ が小さいほど、塩基性は強い。

p. 100 式(4. 49)	$E_1 = E_0 + \frac{RT}{nF} \ln \frac{a_{\text{red}1}}{a_{\text{ox}1}} \quad (4 \cdot 49)$	$E_1 = E_0 + \frac{RT}{nF} \ln \frac{a_{\text{ox}1}}{a_{\text{red}1}} \quad (4 \cdot 49)$
p. 100 式(4. 51)	$E_0 + \frac{RT}{nF} \ln \frac{a_{\text{red}1}}{a_{\text{ox}1}} = E_0 + \frac{RT}{nF} \ln \frac{a_{\text{ox}2}}{a_{\text{red}2}} \quad (4 \cdot 51)$	$E_0 + \frac{RT}{nF} \ln \frac{a_{\text{ox}1}}{a_{\text{red}1}} = E_0 + \frac{RT}{nF} \ln \frac{a_{\text{ox}2}}{a_{\text{red}2}} \quad (4 \cdot 51)$
p. 103 章末問題 1 番(b) 問題文中	0.1 molL ⁻¹ NH ₃ 水溶液 (NH ₃ の pK _a 値 = 4.75)	0.1 molL ⁻¹ NH ₃ 水溶液 [NH ₃ の pK _b 値 = 4.75 (K _b = 1.78 × 10 ⁻⁵)]
p. 103 章末問題 2 番(c) 問題文中	0.2 molL ⁻¹ の HA 水溶液を完全に中和するのに、	0.2 molL ⁻¹ の HA 水溶液 (500 mL) を完全に——
p. 103 章末問題 3 番 問題文中	NaH ₂ PO ₄ ⁻ , NaHPO ₄ ²⁻ を水に溶かしたときの——	NaH ₂ PO ₄ , Na ₂ HPO ₄ を水に溶かしたときの——
p. 103 章末問題 8 番問題文中 (追加)	原系 (MnO ₄ ⁻ +Fe ²⁺) と生成系の比を計算せよ.	原系 (MnO ₄ ⁻ +Fe ²⁺) と生成系の比を計算せよ (T = 298 K とする).
p. 110 上から 21 行目	Li ⁺ は抗うつ作用をもつが、	Li ⁺ は抗躁作用をもつが、
p. 112 上から 18 行目	炭酸カルシウム (CaCO ₃ , 日本薬局方第一部収載) : 薬局方品は含水塩基性炭酸マグネシウム Mg ₂ (OH) ₂ CO ₃ · nH ₂ O または——	炭酸カルシウム (CaCO ₃ , 日本薬局方第一部収載) : 白色の微細な結晶性粉末で、水にほとんど溶けず、CO ₂ を含む水には Ca(HCO ₃) ₂ を形成することによって溶解性が増す。希酢酸、希塩酸、または希硝酸に泡立って溶ける。胃・十二指腸潰瘍、胃炎などの疾患に対する制酸剤として用いられる。
p. 118 上から 7 行目	(AsH ₃)	(AsH ₃)
p. 121 Column 中	L-シトルニン	L-シトルリン
p. 122 表 5.8 上から三つ目、 四つ目	「次亜リン酸 (hypophosphorous acid)」 「亜リン酸 (hypophosphorous acid)」	「ホスフィン酸 (phosphinic acid)」 「ホスホン酸 (phosphonic acid)」
p. 128 上から 29 行目	代表的なものとして、過ヨウ素酸 (periodic acid, HIO ₄) がある。	代表的なものとして、過ヨウ素酸 (periodic acid) がある。過ヨウ素酸には、メタ過ヨウ素酸 (metaperiodic acid, HIO ₄) とオルト過ヨウ素酸 (orthoperiodic acid, H ₅ IO ₆) の 2 種類が存在し、メタ過ヨウ素酸を水に溶かすとオルト過ヨウ素酸になる (表 5.12 にはオルト過ヨウ素酸の構造を示す)。
p. 129 表 5.12	塩素(Cl)の誘導体 上から 6 番目(酸化数Ⅲ) 亜鉛素酸	亜塩素酸
	ヨウ素(I)の誘導体 上から 1 番目(酸化数Ⅶ) 過ヨウ素酸 (periodic acid)	オルト過ヨウ素酸 (orthoperiodic acid)
p. 134 上から 2 行目	チタン T	チタン Ti
p. 151 Advanced 上から 7, 8 行 目	IP ₃	Ins(1,4,5)P ₃
p. 154 章末問題 9 番の問題文お よび(c)の問題 文	ハロゲンについて、以下の(a)~(e)に答えよ。 (c) HClO, HClO ₂ , HClO ₃ , HClO ₄	ハロゲンについて、以下の(a)~(c)に答えよ。 (c) HClO, HClO ₂ , HClO ₃ , HClO ₄ (H を太字に)
p. 160 上から 2 行目	1 分子で金属イオンの二つの配位座を——	1 分子で金属イオンの二つ以上の配位座を——
p. 160 上から 10 行目	[CoCl(NH ₃) ₆]Cl ₂	[CoCl(NH ₃) ₅]Cl ₂
p. 160 下から 5 行目	potassium tetrachloro palladate (II)	potassium tetrachloropalladate (II)
p. 161 表 6.4 の 7 段目	[CoCl(NH ₃) ₆]Cl ₂	[CoCl(NH ₃) ₅]Cl ₂
p. 164 図 6.7 の	8 配位型錯体における d 電子の収容様式	八面体型錯体における d 電子の収容様式

タイトル		
p. 164 図 6.7 「d ⁶ 」の下	Fe ³⁺ , Co ²⁺	Fe ³⁺ , Co ³⁺
p. 164 上から 7 ~8 行目	7 個(Co ³⁺)の場合,	7 個(Co ²⁺)の場合,
p. 166 式 (6・5)	$ML + L \rightleftharpoons ML_2 \quad K_{(ML)_2} = \frac{[ML_2]}{[M^{n+}][L]} \quad (6 \cdot 5)$	$ML + L \rightleftharpoons ML_2 \quad K_{(ML)_2} = \frac{[ML_2]}{[ML][L]} \quad (6 \cdot 5)$
p. 166 式 (6・6)	$ML_{(n-1)} + L \rightleftharpoons ML_n \quad K_{(ML)_n} = \frac{[ML_n]}{[M^{n+}][ML_{(n-1)}]} \quad (6 \cdot 6)$	$ML_{(n-1)} + L \rightleftharpoons ML_n \quad K_{(ML)_n} = \frac{[ML_n]}{[ML_{(n-1)}][L]} \quad (6 \cdot 6)$
p. 167 上から 5 行目	[Cu(NH ₃) ₄]	[Cu(NH ₃) ₄] ²⁺
p. 173 第 6 章 章末問題 1 番	(a) [Co(NH ₃) ₅]Cl ₃	(a) [CoCl(NH ₃) ₅]Cl ₂
p. 173 第 6 章 章末問題 2 番	(a) [Pt(NH ₃) ₂]Cl ₂ (d) [Pt(en)]Cl ₂	(a) [PtCl ₂ (NH ₃) ₂] (d) [PtCl ₂ (en)]

(2012 年 8 月 14 日現在)